

大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業
(イノベーション対話促進プログラム)
実施状況報告書

平成26年4月1日

公立大学法人大阪市立大学

目 次

1	当初計画の概要等	1
(1)	当初設定した事業の目的	1
(2)	実施体制	1
2	業務の実施状況	2
(1)	事業全体の概要	2
(2)	実施した事業等の詳細	4
①	500人規模対話イベントについて	4
	「シンポジウム・セミナー」その1	4
	「シンポジウム・セミナー」その2	6
	「シンポジウム・セミナー」その3	8
②	50人以下対話イベントについて	10
	「ブレインストーミング」その1	10
	「ブレインストーミング」その2	13
	「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」その1	14
	「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」その2	17
	「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」その3	19
	「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」その4	21
	「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」その5	23
	「ワークショップ」その1	25
	「ワークショップ」その2	27
	「ワークショップ」その3	29
	「ワークショップ」その4	31
	「ビジネスマッチング検討会」	32
③	通常業務における消費者との対話創出について	32
3	事業実施により得られた知見・課題等	35
(1)	本事業による一連の取組を通じて得られた知見・課題等	35
(2)	今後の活動への展望	36
4	その他	37

1 当初計画の概要等

(1) 当初設定した事業の目的

既に活動を始めている健康科学推進会議や健康科学ビジネス推進機構と密接に連携し、両機関の参画機関（大学、企業、病院等）との協議を活性化させる。併せて、交通至便であり、多くの企業、研究機関が集積している大阪うめきた「グランフロント大阪ナレッジキャピタル」に設置した、本学「健康科学イノベーションセンター」を活用し、上述機関のみに留まらず、周辺機関とも連携し、産官学に併せ、医、消費者とのコミュニケーションをも活性化させ、異分野、異業種、異領域からの参加者による、新しいライフスタイルに適応する健康科学領域での新規ビジネスを創生する。

①500人規模対話イベントの実施

今後、コミュニケーション創出の中核となる「健康科学イノベーションセンター」について、より多くの機関、個人にその所在等認識していただき、対話の機会を増加させる。具体には、一般向けシンポジウム、学術シンポジウム、健康科学フォーラムを開催する。

②50人以下対話イベントの実施

健康科学ビジネス推進機構や、ナレッジキャピタル入居企業等を対象とし、「大阪イノベーションハブ」や「Collabo' S 316」等とも連携しながら、ワークショップや懇話会を開催し、対話機会を創出する。具体には、全体ワークショップ（1回/月）、懇話会・セミナー（1回/月）、ビジネスマッチング検討会（随時）を開催する。

③通常業務における消費者との対話創出

「健康科学イノベーションセンター」では、日常的に健康測定機器を消費者の方々に利用いただける環境を整備することとしており、イベントのみならず、日々の業務の中での対話機会創出を図る。

(2) 実施体制

事業実施責任者

役職・氏名 健康科学イノベーションセンター 副所長 堀 洋

実施体制

全ての事業は、健康科学イノベーションセンターでの実施を基本としている。健康科学イノベーションセンター勤務者を中心に、大学本部勤務の教員、職員が連携し、事業推進にあたる。

【実施体制組織図】

<table border="1"> <tr> <td colspan="2">事業責任者</td> </tr> <tr> <td>理事長</td> <td>西澤 良記</td> </tr> </table>		事業責任者		理事長	西澤 良記																																																		
事業責任者																																																							
理事長	西澤 良記																																																						
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">うめきた 健康科学イノベーションセンター</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業推進全体総括</td> </tr> <tr> <td>健康科学イノベーションセンター所長</td> <td>渡辺 恭良</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業実施責任者(主)</td> </tr> <tr> <td>健康科学イノベーションセンター副所長</td> <td>堀 洋</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業実施責任者(副)</td> </tr> <tr> <td>健康科学イノベーションセンター副所長</td> <td>宮側 敏明</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業実施担当者</td> </tr> <tr> <td>研究支援課担当係長</td> <td>古澤 美香</td> </tr> <tr> <td>研究支援課</td> <td>西尾 静香</td> </tr> <tr> <td>健康科学イノベーションセンターCD</td> <td>蛭子 杏子</td> </tr> <tr> <td>健康科学イノベーションセンター事務補助</td> <td>山内 綾子</td> </tr> </table>		うめきた 健康科学イノベーションセンター		事業推進全体総括		健康科学イノベーションセンター所長	渡辺 恭良	事業実施責任者(主)		健康科学イノベーションセンター副所長	堀 洋	事業実施責任者(副)		健康科学イノベーションセンター副所長	宮側 敏明	事業実施担当者		研究支援課担当係長	古澤 美香	研究支援課	西尾 静香	健康科学イノベーションセンターCD	蛭子 杏子	健康科学イノベーションセンター事務補助	山内 綾子	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">杉本地区 大学</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業参画教員</td> </tr> <tr> <td>医学研究科 教授</td> <td>井上 幸紀</td> </tr> <tr> <td>工学研究科 教授</td> <td>高橋 秀也</td> </tr> <tr> <td>生活科学研究科 准教授</td> <td>小島 明子</td> </tr> <tr> <td>都市・健康スポーツ研究センター 准教授</td> <td>岡崎 和伸</td> </tr> <tr> <td>医学研究科 講師</td> <td>田中 雅章</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業担当事務責任者</td> </tr> <tr> <td>研究支援課長代理</td> <td>富澤 信介</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業実務担当者</td> </tr> <tr> <td>研究支援課担当係長</td> <td>車田 季之</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業経理担当者</td> </tr> <tr> <td>研究支援課担当係長</td> <td>梅田 佳弘</td> </tr> </table>				杉本地区 大学		事業参画教員		医学研究科 教授	井上 幸紀	工学研究科 教授	高橋 秀也	生活科学研究科 准教授	小島 明子	都市・健康スポーツ研究センター 准教授	岡崎 和伸	医学研究科 講師	田中 雅章	事業担当事務責任者		研究支援課長代理	富澤 信介	事業実務担当者		研究支援課担当係長	車田 季之	事業経理担当者		研究支援課担当係長	梅田 佳弘
うめきた 健康科学イノベーションセンター																																																							
事業推進全体総括																																																							
健康科学イノベーションセンター所長	渡辺 恭良																																																						
事業実施責任者(主)																																																							
健康科学イノベーションセンター副所長	堀 洋																																																						
事業実施責任者(副)																																																							
健康科学イノベーションセンター副所長	宮側 敏明																																																						
事業実施担当者																																																							
研究支援課担当係長	古澤 美香																																																						
研究支援課	西尾 静香																																																						
健康科学イノベーションセンターCD	蛭子 杏子																																																						
健康科学イノベーションセンター事務補助	山内 綾子																																																						
杉本地区 大学																																																							
事業参画教員																																																							
医学研究科 教授	井上 幸紀																																																						
工学研究科 教授	高橋 秀也																																																						
生活科学研究科 准教授	小島 明子																																																						
都市・健康スポーツ研究センター 准教授	岡崎 和伸																																																						
医学研究科 講師	田中 雅章																																																						
事業担当事務責任者																																																							
研究支援課長代理	富澤 信介																																																						
事業実務担当者																																																							
研究支援課担当係長	車田 季之																																																						
事業経理担当者																																																							
研究支援課担当係長	梅田 佳弘																																																						

2 業務の実施状況

(1) 事業全体の概要

健康食品、健康器具、健康関連サービス等は、既に大きなビジネスとなっている。これらの顕在化ビジネスを科学的に下支えする新しい学際領域といわれている「健康科学」分野において、一般消費者の声を間近に反映できる場で、異分野融合や広範で異なる背景の専門家を含む産学連携を進めることにより、さらなる潜在的な新規ビジネス実用化課題の発掘とそれら発掘課題に係わるビジネス化実践展開システムの確立を目指した。

健康科学イノベーションセンターでは、「疲労研究」を核に「みんなで拓く健康科学イノベーションのベースキャンプ」をスローガンとして、企業・行政・研究者そして消費者が力を合わせ、健康に良い製品・サービスや環境を築くこと、また、関西の中心という立地を活かし、産-学-官-医-消費者ネットワークのハブ的機能を果たすこと、すなわち、関西発の新たなイノベーションを起こすための拠点となることを目指し、本事業実施の核を担った。

【実施概要】



①500人規模対話イベントの実施に関して

「シンポジウム」「セミナー」

1. 「開所記念 一般公開シンポジウム」 平成 25 年 9 月 16 日（参加者 280 名）
 2. 「平成 25 年度 大阪市立大学国際シンポジウム（セッション 3）」
脳科学から健康科学イノベーションへ 平成 25 年 9 月 17 日（参加者 68 名）
 3. 「第 4 回健康科学推進フォーラム」 平成 26 年 2 月 5 日（参加者 173 名）
- ※「疲労度測定会」「企業製品展示会」等も併催し関心を引き出す工夫を凝らした。

②50人以下対話イベントの実施に関して

「ブレインストーミング」

1. 平成25年10月31日（参加者 59名）
2. 平成26年1月26日（参加者 43名）

「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」

1. 「健康医学空間創出」事業化コンソーシアム
平成25年11月22日（参加者 34名）
2. 「スーパーフード創出」事業化コンソーシアム
平成25年12月13日（参加者 36名）
3. 「超高感度センシング健康生活創出」事業化コンソーシアム
平成26年1月20日（参加者 42名）
4. 「健康医学空間創出」事業化コンソーシアム
平成26年2月21日（参加者 25名）
5. 「子どもウェルネス創出」事業化コンソーシアム
平成26年3月28日（参加者 26名）

「ワークショップ」

1. CHSI ワークショップ 平成25年11月14日（参加者 7名）
2. CHSI ワークショップ 平成25年12月16日（参加者 23名・視察傍聴 2名）
3. CHSI ワークショップ 平成26年2月3日（参加者 5名）
4. CHSI ワークショップ 平成26年2月5日（参加者 10名）

③通常業務における消費者との対話創出に関して

1. 健康測定：原則、平日の10～18時にセンターを開放（来客者 約2～300人/月）
2. 健康製品展示：センターの開放に併せて自由にアクセス可能

④その他

1. 慶應義塾大学大学院 SDM 研究科「WITH イノベーション対話ワークショップ」
平成25年9月16日～18日（本機関より のべ3名参加）
2. 慶應義塾大学大学院 SDM 研究科
「Open Kids 特別編 イノベーション創出のためのワークショップ1&2」
平成25年11月17日、24日（本機関より 1名参加）
3. 慶應義塾大学大学院 SDM 研究科「イノベーション対話シンポジウム」
平成26年3月12日（本機関より 2名参加）

COI 構想への展開に関して

大阪市立大学における革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）拠点構想においては、【循環型「医・食・住」コミュニティーの実現を目指す光合成イノベーション拠点】を中心的課題に掲げている。ビジョンの選択にあたっては、ビジョン3「活気ある持続可能な社会の構築」に関わるテーマとして、他の2つのビジョンにもまたがる、1)人工光合成技術の活用 → エネルギーと食糧の自給自足、2)安全安心コミュニティーの形成および3)健康寿命延伸への取組（健康科学）について提案を行った。なお、健康科学イノベーションセンターにおいては、3)健康寿命延伸への取組（健康科学）の領域を主に担うこととなっている。

平成25年度COI STREAM拠点提案の審査結果、本学提案は、COI-T（トライアル）拠点として採択され、拠点の名称は「次世代水素社会の実現」とより具体化された目標となった。本事業において経験したイノベーション対話ツールを応用して、多様な取り組みに関して新たな産学官連携システムの構築に向けた仕組みを創生する“大学発イノベーション”の創出を加速する活動を展開していく予定である。

(2) 実施した事業等の詳細

①500人規模対話イベントについて

「シンポジウム」「セミナー」 その1

ア.概要

会議名称：開所記念 一般公開シンポジウム 「明日のあなたの健康は？-健康科学イノベーションを加速する!!-」

日時：平成25年9月16日（月・祝）13時～18時10分

会場：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル B2F コングレ・コンベンションセンター

目的：健康科学イノベーションセンターの開所にあたり、展開している健康科学推進拠点の創造を目指した活動や目指すところを広く市民の皆様様に周知・広報する。特に、大阪市立大学が中心となって進めてきた、世界最先端の「抗疲労研究」に基づく抗疲労科学や抗加齢医学をはじめとする様々な健康科学関連の研究成果に触れる機会を催す。さらには、これらの研究成果を産学連携等の枠組みにより展開した企業が開発・実用化された製品・サービスを観て体験できる場所(健康科学イノベーションセンター)を提供する。また、これらの知見や製品・サービスへの問合せを可能とする。

プログラム：10:00～17:30 健康科学イノベーションセンター開放

12:30～ シンポジウム受付

13:00～ 開会挨拶

13:10～ 来賓挨拶

13:20～15:35 講演Ⅰ

16:00～18:00 講演Ⅱ

18:00～ 閉会の辞

18:10 閉会

講演内容：講演Ⅰ

- ①「健康・医療戦略の動向」 宮田満(日経BP社)
- ②「健康科学イノベーションセンターでの産・学・官・医・消(費者)連携について」 堀洋(大阪市立大学)
- ③「【健康見守り隊】構想について」 渡辺恭良(大阪市立大学/理研)
- ④「抗疲労産業をアベノミクスの起爆剤に」 梶本修身(大阪市立大学)
- ⑤「抗疲労検診を核とした、うめきた発イノベーション連携 卯津羅泰生(淀川キリスト教病院)
- ⑥「運動・スポーツと健康イノベーション」 宮側敏明(大阪市立大学)
- ⑦「あべのハルカス“先端予防医療センター”の開所に向けて」 河田則文(大阪市立大学)

講演Ⅱ

- ⑧「日本を健康にする！機能性おやつプロジェクト」矢澤一良(東京海洋大学) → 「ヘルスフードの機能性・安全性」 代演 渡辺恭良
- ⑨「脳科学が拓くウェルネスの世界」 山川義徳(NTTデータ経営研究所)
- ⑩「最先端レーザー光の医療応用」 和田智之(理研) → 代演 渡辺恭良
- ⑪「超微量分析技術のヘルスケアへの応用可能性～非侵襲超微量分析技術のヘルスケアへのインパクト～」 佐藤友美(アトナープ)
- ⑫「我が国の情報政策におけるヘルスケアの展望」 神成淳司(慶應義塾大)

学/内閣府) →代演 渡辺恭良

参加者：180名（シンポジウム会場とセンター来場者をあわせると280名）

シンポジウム風景：



イ. 検証

健康科学イノベーションセンターの開所式（7月26日）に引き続き記念として位置付けられた一般公開シンポジウム「明日のあなたの健康は？-健康科学イノベーションを加速する!!-」（9月16日（月曜日・祝））には、予想しなかった台風来襲による悪天候と非常に困難な交通事情にもかかわらず、シンポジウム会場とセンター（タワーC 9F）をあわせ、約300名の参加者を数えた。このことは、健康科学という領域の課題に対して一般の方々をはじめ非常に高い興味・関心をお持ちであることを改めて感じるに至った。シンポジウム形式の企画であったため、双方向性は低いことは課題として残るものの、各方面の講演者により多様な角度からの豊富な話題提供により、普段触れる機会が限られがちな、身近な話題から高度に専門的な健康科学領域の知見の一端にも広く触れることが可能

な状況を演出することができた。加えて、様々な健康科学関連の研究成果とこれらの研究成果を産学連携等の枠組みにより展開した企業の開発・実用化製品・サービスを観て体験できる場所(健康科学イノベーションセンター)を同時に提供したことも目的の一つであり、健康科学推進拠点の創造を目指した活動や目指すところを広く市民の皆様に周知・広報する点に関しては、一定の成果があったものと認められた。

一方で、広報の観点のみにとどまらず、今後、さらに「健康科学イノベーションを加速する!!」ために、産・学・官・医に加え、消費者の皆様方を参画者として巻き込み、健康科学に関する広範囲の意見や動静を収集し、吸い上げ、集約意見(課題)にとりまとめ、そして、これらをイノベーション展開できる場所・システムの整備の構築が急務であることを痛感した。

ウ.アウトプット等

参加者から得たアンケートに記載されたシンポジウムに対する様々な意見・要望を集計・解析し、イノベーション創出の場所・環境構築の整備に向けたワークショップ課題抽出につとめ、得られた課題や問題点を小集団でのステアリングワークショップや具体的な課題に限定した事業化コンソーシアムなどの様々なステージで取り組んでいくこととした。

また、健康科学推進拠点の創造のための活動や目指すところを広く市民の皆様に周知・広報に関する点においては、今回得た一定の成果をさらに効果的に以降の企画・実践に反映させることとした。

「シンポジウム」「セミナー」 その2

ア.概要

会議名称：平成25年度大阪市立大学国際学術シンポジウム 「都市の再創造 20年後の大阪」 (セッション3：脳科学から健康科学イノベーションへ)

日時：平成25年9月17日(火)15時30分～17時30分

会場：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル B2F コングレ・コンベンションセンター

目的：本学は、大都市「大阪」に133年の歴史と伝統を礎にして存在する総合大学として、都市を学問の創造の場としてとらえ、独創的で特徴ある研究を推進してきた成果を発信し続けてきた。なかでも、「エネルギー・環境」や「安心・安全・健康」は都市のセーフティネットを確立する上で必須のテーマであり、その中核を担う健康科学イノベーションセンターの健康科学推進拠点の創造のための活動や目指すところを国際的に周知・広報する。特に、本学が中心となって進めてきた、世界最先端の「抗疲労研究」の基盤的な研究領域である脳科学研究に立脚した様々な健康科学関連の研究成果に触れる機会を催す。さらには、これら基礎的な研究成果を産学連携等の枠組みにより昇華させた企業が開発・実用化された製品・サービスを観て体験できる場所(健康科学イノベーションセンター)を提供する。

プログラム：10:00～18:00 健康科学イノベーションセンター開放

9:30～10:00 シンポジウム オープニング

10:00～12:00 セッション1 クリエイティブ・マネジメント

13:00～15:00 セッション2 人工光合成(1)

15:30～17:00 セッション3 脳科学から健康科学イノベーション

講演内容：セッション3 脳科学から健康科学イノベーション

①「アートと脳：神経美学」 セミア・ゼキ(ロンドン大学)

②「コミュニケーションと脳」 定藤規弘(自然科学研究機構 生理学研究所)

所)

③「健康のための疲労科学」 渡辺恭良（大阪市立大学/理研）

参加者：68名

（大学関係 21名、学生 2名、企業 15名、行政関係 2名、独立行政法人
6名、団体 1名、その他 21名）

シンポジウム風景：



イ. 検証

大阪市立大学が最新の研究成果や専門知識とあわせて、大学のもつワクワクするようなおもしろさを知っていただくという隠れたテーマを含む、平成 25 年度大阪市立大学国際学術シンポジウム「都市の再創造 20 年後の大阪」において、都市のセーフティネットを確立する上で重要な「安心・安全・健康」の課題のひとつと位置付けられる「セッション 3：脳科学から健康科学イノベーションへ」を開催した。我が国に閉じず、グローバルな観点での健康科学領域、さらには、その基盤である脳科学領域、その重要な切り口として、抗疲労研究に加えてコミュニケーションやアートにも焦点を当てた興味深い情報発信となり、健康な日常生活を送るにあたっての関心を広く掘り起こせたものと考えられる。前日（9 月 16 日）に開催された健康科学イノベーションセンター開所記念一般公開シンポジウム「明日のあなたの健康は？-健康科学イノベーションを加速する!!-」と同様、シンポジウム形式の企画であった上に、（同時通訳システムはあったとはいえ）英語での講演を含んだため、双方向性の低いことが課題として残るものの、グローバルな視点・観点からの話題提供により、健康科学領域の課題意識がグローバルレベルでのイノベーションに繋がる可能性を秘める状況を周知することができ、世界に発信可能な健康科学推進拠点の創造のための活動や目指すところを多くの方に周知・広報する点で一定の成果があったものと認められた。

一方で、今後、さらに「健康科学イノベーションを加速する!!」ために、産・学・官・医に加え、消費者の皆様方を参画者として巻き込み、健康科学に関する広範囲の意見や動静を収集し、吸い上げ、集約意見（課題）にとりまとめ、そして、これらをイノベーション展開できる場所・システムの整備の構築が急務であることに加え、一地域での限定的な活動にとどまらず、日本全国、さらには、将来的な観点を見据え海外への情報発信（もちろん、情報ネットワークの構築という観点で）の効果的なツールやシステムをも整備する必要の高いことを課題として強く認識した。

ウ. アウトプット等

参加者から得たシンポジウムに対する様々な意見・要望を適宜解析し、イノベーション創出の場所・環境構築の整備に向けたワークショップ課題抽出につとめ、得られた課題や問題点を小集団でのステアリングワークショップや具体的な課題に限定した事業化コンソーシアムなどの様々なステージで取り組んでいくこととした。

また、本事業の実施期間中での検討は困難とも予測されたが、世界発信に向けた健康科

学推進拠点の創造を目指した活動や体制整備で目指すところを広く市民の皆様に周知・広報する必要性に関して、今回得た成果をさらに効果的に以降の企画・実践に反映させることとした。

「シンポジウム」「セミナー」 その3

ア. 概要

会議名称：第4回健康科学推進フォーラム 「健康社会の実現に向けて」

日時：平成26年2月5日（水）13時～18時20分

会場：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル 4F ナレッジシアター

目的：本学が参画している「関西バイオメディカルクラスター・健康科学推進会議」が、地域に対する大学や産学連携活動を通じた健康科学領域の年度毎の活動展開などを広く多くの方に周知・広報し、次年度の活動や目指すところを協議する場として毎年開催している「健康科学推進フォーラム」を共催した。特に、本年度のフォーラムでは、大阪（“うめきた” グランフロント大阪ナレッジキャピタル地域）・兵庫（神戸医療産業都市）などへの益々のヘルスサイエンス支援機能集積によるイノベーションハブや産学官ネットワークの中心拠点の確立を背景にした、「健康社会の実現」に関する有識者の講演やその展望に関する討論により、健康科学イノベーションの日本における着実な拠点化、さらには、アジア・世界における拠点化を目指す展開についての議論を深め、地域における「健康科学の発展と健康科学イノベーションの他展開」がさらに加速することを目指した。

プログラム：10:00～18:00 健康科学イノベーションセンター「併設展示・体験測定会」

13:00～ 開会、開会の辞

13:05～ 来賓挨拶

13:10～13:50 講演

13:50～14:30 報告講演「健康科学に関する産学官連携活動状況」

14:55～18:15 テーマ講演「手の届く健康社会の展望」

18:15～ 閉会の辞

18:20 閉会

講演内容：講演

「医療イノベーション -医薬基盤研究所が目指すもの-」

榎林陽一（医薬基盤研 / 神戸大 / 大阪大）

報告講演「健康科学に関する産学官連携活動状況」

①健康科学推進会議 堀洋（議員・事務局長/大阪市大/理研 CLST/神戸大）

②神戸大学「健康科学評価センター」 平井みどり（神戸大）

③大阪府立大学「動物科学教育研究センター」 三宅眞実（大阪府立大）

④健康科学ビジネス推進機構 野島学（事務局長 / 関経連）

テーマ講演「手の届く健康社会の展望」

①「脳科学の活用による子どもの健康科学」

水野敬（理研 CLST/大阪市立大）

②「脳科学が拓くウェルネスの世界」

山川義徳（NTT データ経営研究所/京都大/神戸大）

③「日本を健康にする！『機能性おやつ』プロジェクト」

矢澤一良（東京海洋大）

④「オープン！ 先端食科学研究センター」 渡邊敏明（兵庫県立大）

⑤「我が国の情報政策におけるヘルスケアの展望」

神成淳司（慶應義塾大/内閣官房）

⑥「日本における疲労の現状と客観的疲労評価法」

倉恒弘彦（関西福祉科学大/大阪市立大/東京大）

参加者：173名（併設会場への来場者をあわせると約240名）

シンポジウム風景：



イ. 検証

併設の「健康科学関連機関展示会・検診測定会」を担当した健康科学イノベーションセンター会場と併せると約240名を越える参加者を数え、健康科学という領域の課題に対して多くの方々の極めて高い興味・関心を改めて強く感じるに至った。関西地区のアカデミ

アで構成する「健康科学推進会議」との共催であった部分で（一般向けに解りやすい解説を心掛けていただいたとはいえ）少々高度で専門的な内容を含む講演であったが、各方面の講演者が多様な角度から話題を提供したことにより、身近な話題から高度に専門的な健康科学領域の知見にも簡単にアクセス可能で、深く触れる状況を設けることができたと考える。すなわち、シンポジウム形式の企画であったため、双方向性の低いことは課題として残るものの、本事業で開催した「開所記念 一般公開シンポジウム」や「国際学術シンポジウム」に加えて、様々な健康科学関連の研究現状を直接見聞することを通して、健康科学推進拠点の創造のための活動や目指すところを広く市民の皆様に周知・広報することに関しては、大きな成果があったものと認められた。

一方で、大規模で活発な意見交換が可能な双方向性の企画を実現することは非常に困難であることを再確認し、広報や啓蒙の観点にとどまる開催を超えることができなかつた点が課題として残った。今後さらに「健康科学イノベーションを加速する!!」のために、産・学・官・医に加え、消費者の皆様方を参画者として巻き込み、健康科学に関する広範囲の意見や動静を収集し、吸い上げ、集約意見（課題）にとりまとめ、そして、これらをイノベーション展開できる場所・システムの構築に基づいた企画の実践が急務であることを痛感した。

ウ.アウトプット等

参加者から得たアンケートに記載されたシンポジウムに対する様々な意見・要望を集計・解析し、イノベーション創出の場所・環境構築の整備に向けたワークショップ課題抽出につとめ、得られた課題や問題点を、健康科学イノベーションに繋がるシステム構築を基盤とした小集団でのステアリングワークショップや具体的な課題に限定した事業化コンソーシアムなどの様々なステージで取り組み、実践展開していくこととした。

また、健康科学推進拠点の創造のための活動や目指すところを広く市民の皆様に周知・広報するため同様の催しは何らかの形で実現することから、今回得た大きな成果を以降の企画・実践に反映させることとした。

②50人以下対話イベントについて

「ブレインストーミング」 その1

ア.概要

会議名称：第1回“うめきた”ライフサイエンス新機軸構想ブレインストーミング

日時：平成25年10月31日（木）17～19時

会場：グランフロント大阪ナレッジキャピタル 7F 大阪イノベーションハブ会議室

目的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立
健康科学に関する”産-学-官-医-消（費者）”連携による今後の活動展開の可能性や展開方策の協議

プログラム：16:30～17:00 開場・受付

17:00～17:15 講演1

17:15～17:30 講演2

17:30～17:45 講演3

17:45～18:45 自己紹介及び各々の抱えている課題や討議希望議題について
参加者1人1分ずつ発表

18:45～19:00 今後の開催計画の伝達等

講演内容：講演1 ブレインストーミング開催にあたって

～健康見守り隊と産官学連携ネットワーク～

渡辺 恭良：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター所長
 大阪市立大学医学研究科・システム神経科学 特任教授
 理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所センター長

講演 2 健康科学領域に関連する活動展開案

堀 洋：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長
 理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所 客員研究員
 神戸大学連携創造本部・客員教授

講演 3 大阪市大・健康科学イノベーションセンター様へのご提案
 ～みんなで盛り上がり、そして成功へ向けて～

卯津羅 泰生：淀川キリスト教病院事業統括本部・局長付課長
 神戸大学連携創造本部・客員教授

ファシリテーター：渡辺 恭良（プロフィール上記参照）、堀 洋（プロフィール上記参照）

参加者：59名

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等			1	2	5	2	3				9	4
大学生・大学院生			1								1	
企業			3	4	23	1					26	5
TLO												
地方公共団体			1		2	1					3	1
公設試験研究機関			2			2					2	2
財団法人・第3セクター等					1						1	
その他				1	3		1				3	2
合計			8	7	34	6	4				59	

開催風景：



イ. 検証

健康科学に関連する企業、大学・研究機関、官公庁、さらには日頃から健康科学に深い興味を有している市民・一般消費者が一同に集まって、様々な角度から広く議論できる場を提供することを目的に開催した。企画にあたっては、シンポジウムやホームページからの情報発信を中心に集客し、対象者やテーマを絞ることなく、健康科学全般に対する意見・要望の吸い上げの場として50名規模で設計した。

実際に59名（関係者含む）もの多種・多様な参加者を得て、様々な意見・要望を吸い上げることができた。しかし、多忙な参加者の時間的な制約を考慮してプログラムを設計した結果、参加者一人一人に十分意見を発散するための時間を確保することが難しく、今後の課題となった。

ウ.アウトプット等

参加者から得た様々な意見・要望の中から事業化の可能性が高いと思われる領域を5つ選択し、具体的な課題を定めて下記事業化コンソーシアムという形にした。今後、それぞれの領域で課題への取り組みを実践する。

A. 「スパーフード創出」事業化コンソーシアム

「医」・「薬」・「食」をテーマに、エビデンスに基づいた健康科学食品の実用化に向けた研究開発や画期的な究極の成果物の開発に向けた研究開発等を課題とする。

B. 「健康医学空間創出」事業化コンソーシアム

「住」・「環境」・「街」をテーマに、住環境さらには街区や都市の環境・空間を対象とした、エビデンスに基づいた健康科学環境の実現に向けた研究開発を課題とする。

C. 「超高感度センシング健康生活創出」事業化コンソーシアム

「衣」・「装」・「纏」をテーマに、超微量分析・感覚定量化技術などの研究開発、これら技術の実用化障壁の解消や健康生活への応用に関わる研究開発などを課題とする。

D. 「脳科学ビジネス創出」事業化コンソーシアム

「生活」・「活動」・「運動」をテーマに、様々な生体情報・健康情報の脳科学レベルでの解明に関わる研究開発および、これらの解明とICT技術・システムへの応用に関わる研究開発等を課題とする。

E. 「子どもウェルネス創出」事業化コンソーシアム

「子どもの健康生活」をテーマに、子どもを対象とした健康に関連する衣・食・住・運動・雑貨・コミュニケーションその他の研究開発等を課題とする。

「ブレインストーミング」 その2

ア.概要

会議名称：第2回“うめきた”ライフサイエンス新機軸構想ブレインストーミング

日時：平成26年1月29日（水）17:30～19:00

会場：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル 7F 大阪イノベーションハブ会議室

目的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立健康科学に関する”産-学-官-医-消（費者）”連携による今後の活動展開の可能性や展開方策の協議

プログラム：17:15～17:30 開場・受付

17:30～17:45 講演1

17:45～18:55 参加者各々の抱えている課題や希望議題の討議

18:55～19:00 今後の開催予定の伝達等

講演内容：健康科学領域に関連する活動展開 / 健康科学領域での展開方向・希望

堀洋：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所 客員研究員

神戸大学連携創造本部・客員教授

ファシリテーター：渡辺恭良：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター所長

大阪市立大学医学研究科・システム神経科学 特任教授

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所センター長

堀洋：プロフィール上記参照

出席者：43名

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等				1	7	2	3				10	3
大学生・大学院生												
企業				1	11		1				12	1
TLO												
地方公共団体					1	1					1	1
公設試験研究機関			2			2					2	2
財団法人・第3セクター等												
その他				5	4		2				6	5
合計											43	

開催風景：



イ. 検証

健康科学に関連する企業、大学・研究機関、官公庁、さらには日頃から健康科学に深い興味を有している市民・一般消費者が一同に集まって、様々な角度から広く議論できる場を提供することを目的に開催した。

初回に引き続き、参加者・テーマを絞ることなく、自由な討論の場として企画した。今回

は 43 名の参加で、初回とほぼ同様のメンバーが集まった。前回よりも長い討議時間を確保することができたが、新たなアイデアというよりは既存の研究成果の共有という色が強く出てしまった。

ウ.アウトプット等

今後は、新たな参加者の確保及び人数や討議方法の工夫、コンソーシアムとの明確な差別化等、新たな試みが必要である。

「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」 その 1

ア.概要

会議名称：「健康医学空間創出」事業化コンソーシアム キックオフ会合

日 時：平成 25 年 11 月 22 日（金）17:00～19:00

会 場：グランフロント大阪ナレッジキャピタル 7F 大阪イノベーションハブ会議室

目 的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立健康科学に関する研究成果を基に事業化可能な課題に対して、産-学-官-医-消（費者）の連携を促進し、新製品・サービスの開発につなげる。

プログラム：16:45～17:00：開場・受付

17:00～17:05：開会挨拶、会合運営・活動展開に関する事項の協議

17:05～17:35：講演 1

17:35～18:05：講演 2

18:05～18:35：講演 3

18:35～19:00：意見交換・討議

講演内容：講演 1 疲労医学に基づく高齢者のための癒し・快適・健康空間

梶本修身：大阪市立大学大学院医学研究科疲労医学講座・特任教授

株式会社総医研ホールディングス・創設者・取締役

エコナビスタ株式会社・代表取締役

講演 2 住まいが健康のために出来ること

中村孝之：積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 部長

講演 3 オフィス空間における生理的環境領域での取り組み

菅原俊光：コクヨファニチャー株式会社 スペースデザイン部 部長

ファシリテーター：渡辺恭良：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター所長

大阪市立大学医学研究科・システム神経科学 特任教授

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所センター長

堀洋：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所 客員研究員

神戸大学連携創造本部・客員教授

出席者：34名

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等				1	7	2	2				9	3
大学生・大学院生												
企業					10						10	
TLO												

地方公共団体			1	1	1	1					2	2
公設試験研究機関			2			1					2	1
財団法人・第3セクター等												
その他				2	3						3	2
合計											34	

開催風景：



イ. 検証

健康科学分野で事業化の可能性が高いと思われる「空間」にテーマを絞り、有識者や先駆者からの知見を得る場、様々な参加者間で忌憚のない意見を交わす場、成果を結実させるチームやパートナーを形成する場を提供する目的で、30人規模で開催した。初回はキックオフミーティングと位置づけ、現在この領域で展開されている研究の成果や商品開発状況の紹介とコンソーシアムの今後の活動展開や運営に関する協議を中心に設計した。その結果、討議時間が短くなったが、終了時アンケートでは回答者の7割程度が満足（大変満足、満足、やや満足の何れか）という回答であった。その一方で、「総合的に高度な心理学的、デザイン思考的アプローチでの討議を望む」や「このままでは、プロトタイプには至らないので、よりサービスサイエンス的な議論（プロセス）を望む」といった意見もあり、以降の企画においての課題が示唆された。

ウ. アウトプット等

2回目以降は領域ごとの専門家へコンソーシアムの運営をスイッチし、コンソーシアムごとに事業化へ向けてのプロジェクトをスタートさせる。

各コンソーシアムにおいて、初年度は既存の研究成果についての共有と潜在ニーズの発掘（小規模ワークショップや消費者アンケートからの意見も反映）及びビジネスマッチングを中心に進め、できるだけ早期の事業化を目指す。

「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」 その2

ア. 概要

会議名称：「スーパーフード創出」事業化コンソーシアム キックオフ会合

日時：平成 25 年 12 月 13 日

会場：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル 7F ナレッジサロン GH 会議室

目的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立
健康科学に関する研究成果を基に事業化可能な課題に対して、産-学-官-医-消（費者）の連携を促進し、新製品・サービスの開発につなげる。

プログラム：16:45～17:00 開場・受付

17:00～17:10 開会挨拶・会合運営・活動展開に関する事項の協議

17:10～17:30 講演 1

17:30～17:50 講演 2

17:50～18:10 講演 3

18:10～18:30 講演 4

18:30～19:00 意見交換・討議

講演内容：講演 1 生活習慣を予防する食品成分の検索とその作用メカニズム
小島明子：大阪市立大学大学院 生活科学研究科 准教授

講演 2 体内の必須ミネラル量のチェック、予防医学的・栄養学的な健康管理
市村彰男：一般社団法人ミネラル研究会 代表理事
大阪市立大学 特任教授

講演 3 抗疲労食開発のためのヒト試験
杉野友啓：株式会社 総合医科学研究所 取締役

講演 4 抗疲労素材としての還元型コエンザイム Q10
藤井健志：株式会社カネカ QOL 事業部 幹部職

ファシリテーター：渡辺恭良：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター所長
大阪市立大学医学研究科・システム神経科学 特任教授
理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所センター長

堀洋：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長
理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所 客員研究員
神戸大学連携創造本部・客員教授

出席者：36名

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等				1	3	2	2				5	3
大学生・大学院生												
企業			1	2	14		1				2	16
TL0												
地方公共団体						1						1

公設試験研究機関			1			2					1	2
財団法人・第3セクター等												
その他				2	2		2				4	2
合計											36	

開催風景：



イ. 検証

健康科学分野で事業化の可能性が高いと思われる「食べもの」をテーマにした領域において、有識者や先駆者からの知見を得る場、様々な参加者間で忌憚のない意見を交わす場、成果を結実させるチームやパートナーを形成する場を提供するために開催した。初回はキックオフミーティングと位置づけ、現在この領域で展開されている研究や商品開発状況の紹介とコンソーシアムの今後の活動展開や運営に関する協議を中心に設計した。今回は4つの講演をプログラムに組み込んだことで、協議の時間が確保できず、アンケートにおいても「討議方法」「討議内容」「討議時間」について、「やや不満」又は「不満」がアンケート回答者の4割を越える結果となった。

また、参加者を限定せず門戸を開いた結果、一参加者が長時間話し続け、ファシリテーターによるコントロールが難しい場面も発生した。この様な多様性の弊害をプラスに転換する対応も今後の課題として挙げられる。

ウ. アウトプット等

2回目以降は領域ごとの専門家へコンソーシアムの運営をスイッチし、コンソーシアムごとに事業化へ向けてのプロジェクトをスタートさせる。

各コンソーシアムにおいて、初年度は既存の研究成果についての共有と潜在ニーズの発掘（小規模ワークショップや消費者アンケートからの意見も反映）及びビジネスマッチングを中心に進め、できるだけ早期の事業化を目指す。

「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」 その3

ア. 概要

会議名称：「超高感度センシング健康生活創出」事業化コンソーシアム キックオフ会合

日時：平成26年1月20日（月）

会場：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター

目的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立健

康科学に関する研究成果を基に事業化可能な課題に対して、産-学-官-医-消
(費者)の連携を促進し、新製品・サービスの開発につなげる。

プログラム：17:15～17:30 開場・受付
 17:30～17:35 開会挨拶
 17:35～17:40 会合運営・活動展開に関する事項の協議
 17:40～18:00 講演 1
 18:00～18:20 講演 2
 18:20～18:40 講演 3
 18:40～18:55 意見交換・討議
 18:55～19:00 今後の予定などの連絡

講演内容：講演 1：超微量リアルタイム分析技術の貢献
 佐藤友美：アトナープ株式会社 代表取締役
 講演 2：村田製作所のヘルスケア用センサチップ
 伊佐孝彦：株式会社 村田製作所
 事業インキュベーションセンター 企画・推進課 課長
 講演 3：疲労の客観的評価の必要性
 倉恒弘彦：関西福祉科学大学 健康福祉学部 学部長（教授）
 大阪市立大学医学部 客員教授
 ファシリテーター：堀洋：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長
 理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所 客員研究員
 神戸大学連携創造本部・客員教授

出席者：42名

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等				1	6	1	2				8	2
大学生・大学院生												
企業					23						23	
TLO												
地方公共団体					1	1					1	1
公設試験研究機関			1			2					1	2
財団法人・第3セクター等												
その他				1	2		1				1	3
合計			1	2	32	4	3				42	

開催風景：



イ. 検証

健康科学分野で事業化の可能性が高いと思われる「センシング」をテーマにした領域において、有識者や先駆者からの知見を得る場、様々な参加者間で忌憚のない意見を交わす場、成果を結実させるチームやパートナーを形成する場を提供するために開催した。初回はキックオフミーティングと位置づけ、現在この領域で展開されている研究や商品開発状況の紹介とコンソーシアムの今後の活動展開や運営に関する協議を中心に設計した。協議時間は短かったものの非常に活発な意見交換がなされた。アンケートでも「討議時間」以外の項目では全回答者が満足（大変満足・満足・やや満足の何れか）という回答であり、これまでのコンソーシアムと比べて満足度の高いものであった。

今回の参加者を見てみると、センシングの領域を牽引している研究者や製品の実用化に成功した企業の担当者等、その領域に精通した人物が多く参加していた。会議の展開としては、最新の研究開発の動向から現状における弱みが的確に指摘され、それを補うためにどのようなビジネスマッチングが必要かなど、豊富な経験を軸に実践ベースで議論が進んだ。まさに、当センターがコンソーシアムを行う上で理想とする形ではあるが、一方で、高度な議論展開ゆえに専門家以外の発言が難しい状況や自由かつ大胆な意見の表出を躊躇する雰囲気があることも否めなかった。成熟した参加者と一般の参加者との融合も今後の課題として明らかになった。

ウ. アウトプット等

2回目以降は領域ごとの専門家へコンソーシアムの運営をスイッチし、コンソーシアムごとに事業化へ向けてのプロジェクトをスタートさせる。各コンソーシアムにおいて、初年度は既存の研究成果についての共有と潜在ニーズの発掘（小規模ワークショップや消費者アンケートからの意見も反映）及びビジネスマッチングを中心に進め、できるだけ早期の事業化を目指す。

「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」 その4

ア. ワークショップの概要

会議名称：第2回「健康医学空間創出」事業化コンソーシアム

日時：平成26年2月21日（金）17:00～19:00

会場：大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター

目的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立
健康科学に関する研究成果を基に事業化可能な課題に対して、産-学-官-医-消（費者）の連携を促進し、新製品・サービスの開発につなげる。

プログラム：16:45～17:00：開場・受付

17:00～17:05：開会挨拶、会合運営・活動展開に関する事項の協議

17:05～17:35：講演 1

17:35～18:05：講演 2

18:05～19:00：意見交換・討議

講演内容：講演 1：第 2 回会合にあたって 展開方向

梶本修身：大阪市立大学大学院医学研究科疲労医学講座・特任教授

株式会社総医研ホールディングス・創設者・取締役

エコナビスタ株式会社・代表取締役

講演 2：うめきた発ウエルネス・イノベーションを目指して

～淀川キリスト教病院附属うめきたクリニック・産学連携推進室からのアプローチ～

卯津羅泰生：淀川キリスト教病院事業統括本部・局長付課長

神戸大学連携創造本部・客員教授

関西バイオメディカルクラスター健康科学推進会議・議員

ファシリテーター：梶本修身：大阪市立大学大学院医学研究科疲労医学講座・特任教授

株式会社総医研ホールディングス・創設者・取締役

エコナビスタ株式会社・代表取締役

堀洋：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所 客員研究員

神戸大学連携創造本部・客員教授

出席者：健康科学に関係する企業、研究者等 25 名

所属機関	19 歳以下		20～39 歳		40～59 歳		60 歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等				1	6	2	2				8	3
大学生・大学院生												
企業				1	6						1	6
TLO												
地方公共団体						1						1
公設試験研究機関			2			2					2	2
財団法人・第 3 セクター等												
その他				1	1						1	1
合計			2	3	13	5	2				25	

開催風景：



イ. 検証

初回の「健康医学空間創出」事業化コンソーシアムでは、企業の取り組みを中心に講演を企画したが、今回はアカデミアからの講演を中心に企画し、違う角度からの意見抽出を試みた。

事業の性質上、すぐに効果を実感することは難しいが、今後も少しずつ工夫を重ねながら事業化へのテーマ抽出を進めていく。

ウ. アウトプット等

各コンソーシアムにおいて、初年度は既存の研究成果についての共有と潜在ニーズの発掘（小規模ワークショップや消費者アンケートからの意見も反映）及びビジネスマッチングを中心に進め、できるだけ早期の事業化を目指す。

「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」 その5

ア. 概要

会議名称：「子どもウェルネス創出」事業化コンソーシアム

日時：平成26年3月28日（金）17:00～19:00

会場：グランフロント大阪・ナレッジキャピタル タワーC 8F
カンファレンスルーム5

目的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立
健康科学に関する研究成果を基に事業化可能な課題に対して、産-学-官-医-消（費者）の連携を促進し、新製品・サービスの開発につなげる。

プログラム：16:45～17:00：開場・受付

17:00～17:05：会合運営・活動展開に関する事項の協議

17:05～17:35：講演1

17:35～18:05：講演2

18:05～18:25：講演3

18:25～19:00：意見交換・討議

講演内容：講演1 子どもの研究からわかってきたこと

水野敬：理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター
特別研究員

大阪市立大学大学院医学研究科疲労医学講座 特任講師

講演2 子どもウェルネス研究へ向けて

～母親の子育て観と子どもの居どころ～

中村孝之：積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 部長

河崎由美子：積水ハウス株式会社 総合住宅研究所

講演 3 「子どもウェルネス創出」事業化コンソーシアム推進に向けて

高橋健三：株式会社スマイルマーケティング 代表取締役

ファシリテーター：堀洋：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所 客員研究員

神戸大学連携創造本部・客員教授

出席者：25名

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等			2	1	3	1	3				8	2
大学生・大学院生												
企業			2		5	2					7	2
TLO												
地方公共団体												
公設試験研究機関			2								2	
財団法人・第3セクター等					1						1	
その他				2			1				1	2
合計			6	3	9	3	4				25	

開催風景：



イ. 検証

健康科学分野で事業化の可能性が高いと思われる「子どもウェルネス」をテーマにした領域において、有識者や先駆者からの知見を得る場、様々な参加者間で忌憚のない意見を

交わす場、成果を結実させるチームやパートナーを形成する場を提供するために開催した。

初回はキックオフミーティングと位置づけ、現在この領域で展開されている研究や商品開発状況の紹介とコンソーシアムの今後の活動展開や運営に関する協議を中心に設計した。

今回は約3割が新規の参加者であり、「子どもウェルネス」というテーマへの関心の高さが伺えた。また、2回目以降の実施担当者から3年間のプロジェクト推進計画と年間プログラムが発表され、画期的な企画に議論が盛り上がった。コンソーシアムの中心となる人物の気質が運営に大きく反映されることを実感する会合でもあった。

ウ.アウトプット等

2回目以降は領域ごとの専門家へコンソーシアムの運営をスイッチし、コンソーシアムごとに事業化へ向けてのプロジェクトをスタートさせる。

各コンソーシアムにおいて、初年度は既存の研究成果についての共有と潜在ニーズの発掘（小規模ワークショップや消費者アンケートからの意見も反映）及びビジネスマッチングを中心に進め、できるだけ早期の事業化を目指す。

「ワークショップ」 その1

ア.ワークショップの概要

会議名称：第1回 CHSI ワークショップ

日 時：平成25年11月14日

会 場：大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター会議室

目 的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立
文部科学省イノベーション対話プログラムにおける人材育成

テ - マ：健康科学に望むもの

内 容：1.ブレインストーミング・親和図法の方法及びルールの説明（3分）

2.ブレインストーミング（10分）

3.親和図作成（6分）

4.まとめ（10分）

ファシリテーター：蛭子杏子（大阪市立大学健康科学イノベーションセンター）

出席者：7名

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等				3	2	1					2	4
大学生・大学院生												
企業												
TL0												
地方公共団体												
公設試験研究機関												
財団法人・第3セクター等												
その他				1								1

合計				4	2	1					7
----	--	--	--	---	---	---	--	--	--	--	---

開催風景：



イ. ワークショップの検証

事業化コンソーシアムにおけるイノベーション創出の可能性を高めるべく、テーマ抽出と対話型ツールを盛り込んだプログラムの模索及び検証を目的に主に学内関係者を対象に開催した。

今回はブレインストーミングと親和図法を用いて、短時間でどれだけアイデアとインサイトを得ることが出来るかを検証した。7名の参加者で行った結果、10分間のブレインストーミングで42個のアイデアが表出され、16分間（当初の予定を1分延長）で親和図法とまとめを実施することができた。また、短時間（1回の発散・収束）でも今後の事業化コンソーシアムにおいて参考となりそうなインサイトを導き出せることがわかった。

ウ. アウトプット等

今後、実際にコンソーシアムの限られた時間の中で活用するために、他にどのような手法

が有効か等、様々な試行を重ね、最適なデザインを模索する。

「ワークショップ」 その2

ア. ワークショップの概要

会議名称：第2回 CHSI ワークショップ

日 時：平成25年12月16日

会 場：大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター

目 的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立
文部科学省イノベーション対話プログラムにおける人材育成

テ ー マ：こども Wellness “子供の時、疲れるなあ～、疲れたなあ～と感じたこと”

内 容：15:00 集合・名札作成（ニックネーム）

15:00-15:05 ワークショップの目的・趣旨説明 / CHSI の紹介

15:05-15:15 自己紹介 / 頭の体操「これは何？」（考察・答え合わせ）

15:15-15:20ブレインストーミングの方法・ルール説明、題材発表

15:20-15:30ブレインストーミング

15:30-15:35 親和図法・まとめ方の方法説明

15:35-15:45 親和図作成

15:45-16:00 相互発表・総括

ファシリテーター：堀洋：大阪市立大学健康科学イノベーションセンター副所長
理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究所 客員研究員
神戸大学連携創造本部・客員教授

出席者：22名

健康科学ビジネス推進機構 1名（女性）

㈱スマイルマーケティング 1名（男性）

淀川キリスト教病院 1名（男性）

コクヨファニチャー㈱ 1名（女性）

大阪市立大学大学院生 9名（男性5名、女性4名）

大阪市立大学大学院教員 2名（男性）

大阪市立大学産官学連携コーディネーター 1名（男性）

大阪市都市計画局 1名（男性）

大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター 5名（男性1名、女性4名）

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等				3	1	1	3				4	4
大学生・大学院生			5	4							5	4
企業					1	1					1	1
TLO												
地方公共団体					1						1	
公設試験研究機関												
財団法人・第3セクター等												

その他				1	1						1	1
合計			5	8	4	2	3				22	

イ. ワークショップの検証

事業化コンソーシアムにおけるイノベーション創出の可能性を高めるべく、テーマ抽出と対話型ツールを盛り込んだプログラムの模索及び検証を目的に開催した。

今回は学生・企業・公務員等幅広い属性から20代～60代の幅広い年代の参加者を得て、多様性の効果を検証した。また、「子どもウェルネス創出」事業化コンソーシアムのプレワークショップと位置づけ、事業化の方向性を見出すため、1時間程度での開催を検証した。実施にあたって慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科主催のワークショップを参考に企画し、同科のプレゼン資料の一部を使用した。結果、対話ツール初心者にもスムーズに導入することができ、予定通りの時間内にプログラムを完了することができた。

今回のワークショップでは異分野・異世代の参加者がうまく融合して終止アットホームな雰囲気なか進行した。また、学生が起爆剤となり、非常に活発な意見が交わされた。事業化コンソーシアムでも学生の参加を得ることで有意義な結果を生むことが期待される。

ウ. ワークショップのアウトプット等

今回のワークショップの結果を「子どもウェルネス創出」事業化コンソーシアムで発表し、今回出たアイデアが事業化へのヒントとなることを期待する。

「ワークショップ」 その3

ア. ワークショップの概要

会議名称：第3回 CHSI ワークショップ

【文部科学省補助事業 大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業(イノベーション対話促進プログラム)】

日 時：平成26年2月3日(月)

会 場：大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター

目 的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立
文部科学省イノベーション対話プログラムにおける人材育成

テ ー マ：健康科学の分野での新製品開発
あったらいいな♪こんな健康製品やサービス

内 容：ブレインストーミングの説明 5分

ブレインストーミング 10分

2×2の説明 5分

2×2 15分

まとめ

ファシリテーター：蛭子杏子(大阪市立大学健康科学イノベーションセンター)

出席者：5名

所属機関	19歳以下		20～39歳		40～59歳		60歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等				3	1	1					1	4
大学生・大学院生												
企業												

TL0												
地方公共団体												
公設試験研究機関												
財団法人・第3セクター等												
その他												
合計				3	1	1						5

開催風景：



イ. ワークショップの検証

事業化コンソーシアムにおけるイノベーション創出の可能性を高めるべく、テーマ抽出と対話型ツールを盛り込んだプログラムの模索及び検証を目的に開催した。今回は2月5日の大学院生を対象としたワークショップのプログラムの検証（実施時間等）と、学生と社会人のアイデアを比較することを目的に実施した。

ウ. ワークショップのアウトプット等

今回抽出された意見と2月5日のワークショップの意見とを比較検証し、今後の事業化コンソーシアムに反映する。

「ワークショップ」 その4

ア. ワークショップの概要

会議名称：第4回 CHSI ワークショップ

【文部科学省補助事業 大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業(イノベーション対話促進プログラム)】

日 時：平成 26 年 2 月 5 日(水)
 会 場：大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター
 目 的：健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立
 文部科学省イノベーション対話プログラムにおける人材育成
 テーマ：健康科学の分野でベンチャー企業を興す
 あったらしいな♪こんな健康製品やサービス
 内 容：13:00～18:00 健康科学推進フォーラム参加
 18:00～18:10 自己紹介
 18:10～18:15 WS の趣旨、状況設定
 18:15～18:30 マシュマロチャレンジ
 18:30～18:35ブレインストーミングの説明
 18:35～18:45ブレインストーミング
 18:45～18:50 2×2 の説明
 18:50～19:05 2×2
 19:05～19:15 相互発表、まとめ
 ファシリテーター：蛭子杏子（大阪市立大学健康科学イノベーションセンター）
 出席者：大阪市立大学大学院生 10 名（男性 6 名、女性 4 名）

所属機関	19 歳以下		20～39 歳		40～59 歳		60 歳以上		不明		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学等												
大学生・大学院生			6	4							6	4
企業												
TLO												
地方公共団体												
公設試験研究機関												

イ. ワークショップの検証

事業化コンソーシアムにおけるイノベーション創出の可能性を高めるべく、テーマ抽出と対話型ツールを盛り込んだプログラムの模索及び検証を目的に開催した。

今回は同日の健康推進フォーラムに参加し、健康科学分野における研究開発の知識を得た大学院生を対象とし、“最新の研究開発の状況を知った上で、自分達ならどんな商品を開発するか”について学生の視点を探ること、さらに事前に同様のテーマで行った社会人の視点を比較することを目的として実施した。

同じテーマ・同じ制限時間で行ったブレインストーミングであったが、比較的現実的な（事業化が可能と思われる）アイデアが多かった社会人に対して、学生ではマンガの架空のアイテムを模倣したアイデア等、一見商品化が難しそうアイデアが多かった。また、商品化が困難と思われるアイデアを変った角度から、又は無理やり商品化しようと試みるなど、社会人にはない視点や発想が印象的であった。今後のコンソーシアムにおいて学生を交えた企画を試みることもイノベーション創出への一助になると確信するところである。

ウ. ワークショップのアウトプット等

今回のワークショップの結果は各コンソーシアムで発表し、事業化へ向けてのヒントとなることを期待する。また、今後のコンソーシアムにおいて、学生が参加しやすい環境を整えることも急務である。

ビジネスマッチング検討会

ア. 概要

企業、研究者のシーズ・ニーズマッチングの検討に関しては、主に日常的な活動における個別対応により実施した。本事業開始以降、企業、自治体や研究者と個別に対応し、事業開始月から3月末まででのべ約130件の事案を検討してきた。各々持ち込まれた事案の内容により、個別の共同研究に展開させる案件、集約可能な事例として複数機関で調整する案件、さらには、複数機関による共同研究開発として検討する案件などに仕分けし、継続した展開を実施した。

イ. 検証

健康科学領域のシーズ・ニーズは極めて多岐にわたり、かつ、多様な段階の課題が存在した。企業はじめ様々な機関や研究者などから寄せられる事案は、日常的な業務活動の中で個別に対応し、適宜、検討の上展開した。基本的には、本学のこれまでの研究活動で他機関に先行している「疲労」・「抗疲労」を中心とした領域を軸に展開を図ったが、拡大的に、「抗ストレス」、「癒し・快適」「抗加齢（アンチエイジング）」、さらには、「美加齢（ビューティフルエイジング）」といった関連領域にも展開を拡げていった。

また、既に本事業開始前より活動している健康科学推進会議や健康科学ビジネス推進機構と密接な連携を取り、両機関の参画機関（大学、企業、病院等）との協議の活性化なども実行できた。併せて、本「健康科学イノベーションセンター」の交通至便であり、多くの企業、研究機関が集積している大阪うめきた「グランフロント大阪ナレッジキャピタル」という立地条件を最大限に活用し、上述機関のみに留まらず、周辺に進出している多数機関とも効率的に連携をとり、産官学に併せ、医、消費者とのコミュニケーションによる、異分野、異業種、異領域からの参加者による、新しいライフスタイルに適応する健康科学領域での新規ビジネスを創生という観点から今までにないマッチングと展開を目指すことができた。

ウ. アウトプット等

本学や本センターと各企業・機関との個別案件としての共同研究への展開はもちろん、集約可能な課題については、関連する複数機関での協議、課題や方向性毎の「懇話会（事業化コンソーシアム）」での対話などの継続、集約した特定テーマに関する複数機関（産学官ネットワークによる）さらなる調整、あるいは、複数機関による共同研究開発への発展などに継続した展開が実施できた。

③通常業務における消費者との対話創出について

健康科学イノベーションセンターでは、日常的な業務において健康測定機器を来所者に利用いただける環境を整備し、原則（センターで実施する他の行事などがある場合を除いて）、平日の10～18時に疲労度測定（自律神経測定システム）などによる健康測定を実施した。来所者（測定者）は、一ヶ月あたり概ね2～300人であり、測定対応時には、来所者との対話機会の創出に努めると共に、可能な限りアンケート記入・回収を実施した。

また、上述のイベント等以外にも、他機関との共同により、疲労度測定システムに加え、体成分分析測定、超音波骨密度測定および両腕血圧血流測定などの測定体験機会を3回程度実施し、日常業務以外でも対話機会の創出の増加を図った。

加えて、「抗疲労」、「抗ストレス」や「抗加齢」という観点において産学連携活動の成

果として大阪市立大学と企業により研究開発された健康科学に関連する領域の製品やサービスに来所者が自由に触れることのできる(見聞や体験することのできる)展示を併せて実施し、消費者の生の声を広く収集する機会を得増加させた。これらの機会を通じ、対話創出のみではなく、「予防医学」や「先制医療」などといった考え方の理解増進を啓発する場面の多様化も図った。



④その他

今回、本事業の推進においては、文部科学省が開発する「イノベーション対話ツール」を使用して展開することを本学は希望した。このため、適宜、慶応大学大学院 SDM 研究科が実施するワークショップやシンポジウムに積極的に参加し、手法の習得と応用に最大限努め、得られた手技・手法を計画した事業活動の展開に実践することとした。また、これらの機会を利用して、全国で活動中の他機関の事業展開状況の理解の深化を図り、さらに、活動中の担当者とのネットワークを構築し、事業展開の最適化を図った。以下に参加したワークショップ等を記載する。

その1

慶應義塾大学大学院 SDM 研究科「WITH イノベーション対話ワークショップ」

平成 25 年 9 月 16 日～18 日 (本機関より のべ 3 名参加)

その2

慶應義塾大学大学院 SDM 研究科

「Open Kids 特別編 イノベーション創出のためのワークショップ 1&2」

平成 25 年 11 月 17 日、24 日 (本機関より 1 名参加)

その3

慶應義塾大学大学院 SDM 研究科「イノベーション対話シンポジウム」

平成 26 年 3 月 12 日 (本機関より 2 名参加)

3 事業実施により得られた知見・課題等

(1) 本事業による一連の取組を通じて得られた知見・課題等

本、大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業（イノベーション対話促進プログラム）事業の計画においては、交通至便であり、多くの企業や研究機関が集積している大阪うめきた「グランフロント大阪 ナレッジキャピタル」に平成25年7月に設置された本学「健康科学イノベーションセンター」の活用を重要な位置付けをとっていた。そして、このセンターを中心に、既に活動をしていた健康科学推進会議や健康科学ビジネス推進機構と密接に連携し、両機関の参画機関（大学、企業、病院等）との協議を活性化させるに加え、これらの機関に留まらず、周辺機関との連携や産学官に併せ、医、消費者とのコミュニケーションを活性化し、異分野、異業種、異領域からの多様な参加者による、新しい時代のライフスタイルに適応する健康科学領域での新規ビジネスを創造する、「健康科学領域での新規ビジネス実用化課題の発掘と実践展開システムの確立」をテーマとして掲げ事業を展開した。

はじめに、本事業のテーマである健康科学領域に関する興味・関心度は、様々な層の方々にいずれも極めて高く、企画実行した、「シンポジウム」・「セミナー」、「ブレインストーミング」、「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」あるいは「ワークショップ」などの事業には、主催者が予想した以上の参加者の参集があり、さらに、参加者の主体的で活発・有意義な議論が展開された。

「シンポジウム」・「セミナー」においては、計画した500人規模の参集者を得るには至らなかったものの、数10名～200名以上の規模の多様な層の方々に参加いただき、有識者や企業最前線で活躍の方の講演の聴講のみにとどまらず、数多くの反響、意見および問合せが、回収したアンケートだけではなく、事後にも寄せられ、不特定多数を対象とした際の対話創出が実現できたと考えられた。このことは、改めて、健康科学に対する関心の大きさを認識すると共に、それら興味・関心について、さらに深掘りするべき事項・分野、有識者から伝わり難い項目の抽出など様々な基礎的情報を得ることができた。

また、「ブレインストーミング」においては、その参加者は、大学研究者と健康科学領域に興味のある企業の方々の占める割合が高く、多くの“シーズ”展開を背景にした、今後の、さらに、遠い将来像としての、健康科学領域で必要な“モノ”や“サービス”に関する活発な意見交換がなされた。「シンポジウム」・「セミナー」で得られた、いわゆる、“ニーズ”の立場に立った情報を踏まえた上で、さらに先鋭化・高度化した健康科学に関する“ニーズ”の掘り起こしに言及される意見も見受けられ、健康科学領域でのソリューション創出や健康科学イノベーション惹起への多くのヒントを取得することができた。実際に、それらヒントは、様々な「健康科学ビジネス懇話会」での議論展開に繋がり、大阪、関西での健康科学に関するイノベーション連鎖という点においては、対話やコミュニケーションで得たアイデア・コンセプトを収束させる展開が、小さい規模ながらできたのではないかと考えられた。

続いて、様々なツールや仕組みで発散させた“健康科学”を対象にした意見や関心度などを基盤として、「健康医学空間創出」事業化コンソーシアム、「スーパーフード創出」事業化コンソーシアム、「超高感度センシング健康生活創出」事業化コンソーシアム、そして、「子どもウェルネス創出」事業化コンソーシアムの4種の「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」での議論をスタートさせた。（来年度に、「脳科学ビジネス創出」事業化コンソーシアムの活動開始も計画している。）これらの「懇話会」では、さらに、実用化・産業化を目指した企業の方々を中心に大学研究者、そして自治体や一部一般の方が加わる構成で意見交換・議論が進められた。「シンポジウム」・「セミナー」や「ブレインストーミ

ング」で広く散りばめられた広範なアイデア・コンセプトから各懇話会に特異的に関連する事項を選びすぎ、さらに、より現実的な要素を多く加えて、話題の収斂を図った。近い将来に収束意見をまとめ上げるという方向で新たな対話のテーマ提供ができるような展開が期待される。

さらに、「ワークショップ」については、比較的小規模人数の参加者での試行を繰り返すことに重点を置いたが、「シンポジウム」・「セミナー」、「ブレインストーミング」や各「懇話会（健康科学ビジネス懇話会）」との有機的連動が功を奏し、短時間・少人数ならではの展開方向での多くのヒントを導き出すことができ、各事業企画において先導的な意見を提示することができるユニットとして機能したと考えられた。

（２）今後の活動への展望

本事業（プログラム）では、対話ツールの様々な場面での応用という点においては、短期間にもかかわらず多様な展開を達成し、イノベーションに向けた対話促進の手法・システムを習得たものと考えられた。一方で、アイデア・コンセプトの”発散”段階では、広く普遍的な情報入手ができるにも関わらず、話題や展開方向の”収斂・収束”段階になると、各参加者の立場がより鮮明に反映されることとなり、参加者の所属する機関が保有する守秘事項の問題など、さらにイノベーションの惹起・連鎖に向けては対応策を検討し、克服すべき課題が見出せたのも事実であった。これらの点を踏まえて、健康科学領域での「ワークショップ」活動は、機能的な部分で、“健康科学イノベーションセンター”のスタッフミーティング、本学全体から関連の教員で構成している“(健康科学)全学ワーキンググループ会合”、さらには、センター設立2年度目になり益々参画が期待できる本学の大学院生・学生のセンターへの参画など様々な形態で継続的に展開させる予定である。

一方、本事業（プログラム）は、COIプログラムの展開において、産学が連携した具体的な研究テーマを設定するにあたって、異分野・異業種・異領域からの参加者による「未来に向けた対話（フューチャーセッション）」に応用するコトが期待されていた。本学は、ビジョン3「活気ある持続可能な社会の構築」において、COI-T（トライアル）「次世代水素エネルギー社会の実現」拠点として他の参画機関と共に採択されている。この拠点課題では、「環境自立型コミュニティを創出し、”つながり・自律”による、安心・安全な地域社会の実現を目指す」ことを標榜して事業展開を進めており、“健康科学領域”での対話促進→イノベーションの惹起・連鎖に加えて、今後は、“水素循環型社会”“、“地産地消型高自給コミュニティ”“、“防災対応”、“自律社会の創生”、“さらには、”コミュニティリフォーム“はじめ多くの領域での対話促進→（課題や問題の顕在化）→イノベーションの惹起・連鎖→ビジョンの実現に向けた展開を進めていくことが肝要と考えている。



4 その他

謝辞

本事業の実施に際しては、「大学研究者、企業の方々のみならず、大学の学生や一般の方々にも広くご協力いただき、多様性のある議論を行う。」事を目指し、約半年間取り組んできました。手探りの状況で着手し進めてきましたが、取り組み結果をまとめるに至りました。様々なシンポジウム、ブレインストーミング、ワークショップ等にご参加下さった多くの皆様に心より感謝致します。

また、貴重な機会を与えていただいた文部科学省様はもとより、対話ツールの適用や展開等の手法について、懇切丁寧にご教示賜った慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の皆様にも深く感謝申し上げます。

今後も、本取り組みの姿勢や取得した手法・仕組みは、健康科学イノベーションセンターの活動展開や大阪市立大学が取り組む COI プログラムの推進において、様々な場面で応用していく所存です。